北九州市立城南中学校　学校通信

笑顔

～やればできる！
夢かなうまで、真っ向勝負！～

自立・勤勉・礼儀

令和７年５月１２日　№３　発行者：校長　岩波　宏明

学校教育目標
生徒一人一人の個性や能力の伸長を図り、徳・知・体の調和のとれた心豊かな人間の育成に努める。

今日の発言

十数年前の話ですが、校長先生の中学バスケ部時代の先輩（１つ上）が新聞に「今日の発言」として７回に渡って執筆していたものの一部を紹介します。

地域に根差して

鶴屋百貨店バスケットボール部（熊本）は九州で唯一の実業団チーム。メンバーのほとんどが熊本出身で、地域に根差したチームとして子どもたちの目標になれるよう、日々の練習に励んでいます。普段でも日程が合えば小中学校に行って指導したり、高校生と練習ゲームをしたりと、なるべく多くの子どもたちと触れ合う時間を設けています。

バスケットの技術や楽しさを伝えることはもちろんですが、「挨拶や返事をきちんとする」「人の話は目を見て素直に聞く」「行動を早くする」「決まりごとはしっかり守る」など、大切なことを身をもって示していくことも大事ではないでしょうか。一方で私たちも、目を輝かせて純粋に取り組む子どもたちと接することで初心に戻り、改めてバスケットの楽しさを感じることができるんです。

基本の大切さ

全日本実業団バスケットボール選手権が松山市で開かれたが、またも準優勝に終わった。勝負どころでのワンプレーの大切さがあらためて身に染みた。いくら応用練習をしたところで、基本ができていないと本番では通用しない。

「正確なパスを出す」「確実にノーマークシュートを決める」ことは、基本中の基本。普段の練習でも試合の場面をイメージし、緊張感をもって取り組まないと本番では生きない。

そこで私たちの練習では、ランニングシュートを全種類、全員が連続で決めるまで続けるメニューを取り入れている。自分が失敗すれば仲間に迷惑がかかるというプレッシャーをかけることで、本番のようなシュート場面をつくることが狙いだ。あと１本で終了というところでミスが続き、１時間もそれだけをやっていたこともある。強いチームの試合前のアップを見ると、誰一人シュートを落とす選手はいない。

日々の積み重ねの中で基本を徹底し、当たり前のことがきちんとできるということがいかに大事か。全国制覇という目標に向かって、もう一度、鍛え直しである。

執筆者　　鹿毛　美智子（かげ　みちこ）
鶴屋百貨店バスケット部監督。北九州出身。中村学園高校ではウインターカップで全国優勝。日体大でもインカレで全国優勝。弟は校長先生の同級生で元プロバスケット選手。

＊日頃の学校生活にも関係すると思って紹介しました。
水・木は中間考査です。最後まで、あきらめずに頑張りましょう。